

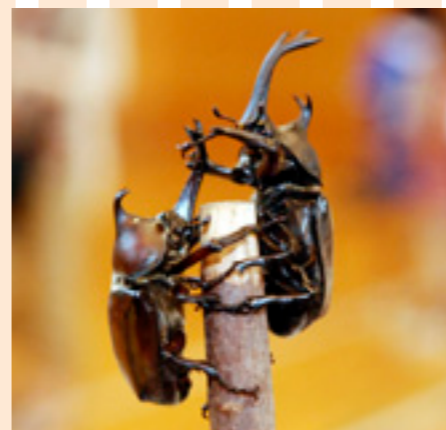
目指せ最強横綱!

全国かぶと虫相撲大会

中山町の夏の恒例イベント「第23回全国かぶと虫相撲大会」が、7月15日、総合体育館で開催されました。

昨年の大会がメディアで大きく取り上げられたためか、今年も定員を超える参加申込みがあり、キャンセル待ちが出るほどの大盛況ぶり(※)。県内のほか、遠くは埼玉県や千葉県から384名のちびっこ親方が集い、自慢のかぶと虫で最強横綱を目指しました。

※当初定員336名に対し、400名を超える参加申込みがあり、急ぎよ、定員を384名に増員しました。



▲表紙でみんなの視線を集めていたのは、土俵上で戦うかぶと虫でした。

行事の「はっけよいのこった!」の声で取組みが始まると、親方となつた子どもたちは、かぶと虫に向かって「頑張れ!」「いけ、いけ!」と声援を送り、取組みの様子を見守りました。

制限時間ぎりぎりまで競り合い、最後まで勝負の分らない取組みや、残り数秒からの大逆転劇など、見ごたえある取組みが多数あり、大人も子どもも大興奮。繰り広げられる激戦に、会場は大変な盛り上がりを見せていました。

トーナメント戦を勝ち抜き、最強横綱決定戦まで残ったのは、青木ひかりちゃん(川西町・5歳)のかぶと虫「さくら」と黒田優輝くん(山形市・8歳)のかぶと虫「ブラックカブト」。

激戦の末、小さな体を活かして素早く土俵の頂上に登った青木ひかりちゃんの「さくら」に軍配が上がりました。さくらは卵からかえし、大事に育ててきたとのこと

で、優勝の喜びもひとしおだったようです。

取組みのほか、木登りレースやかぶと虫リレー、会場の外ではソフクリームがもらえるスタンプラリーが開催されました。

また、初めての試みである東北楽天ゴールデンイーグルスコーチによる野球教室や、中山建設同友会の土木建設作業車輛、町消防団の車輛などの展示も行われ、残念ながら取組みで負けてしまった子どもたちも、最後までイベントを楽しんでいってくれました。

今年も、かぶと虫相撲大会は子どもたちにとって楽しい思い出となったようです。

優勝できて嬉しい! 一生懸命戦ってくれたので、さくらちゃんに「頑張ってくれてありがとう」と言いたいです。



▲青木ひかりちゃん(川西町・5歳)と、見事「最強横綱」に輝いたかぶと虫の「さくら」



大興奮の最強横綱決定戦

かぶと虫相撲のルール

2匹のかぶと虫力士は、行事の「はっけよいのこった!」のかけ声で取組みを始め、開始から30秒が経った時点で、相手のかぶと虫よりも上にいた方が勝ちとなります。ただし、制限時間内に相手のかぶと虫に振り落とされたり、土俵から飛び立ってしまった場合は負けとなります。

参加者は、12のブロックに分かれてトーナメント戦に挑み、ブロックの優勝力士が「^{せきわけ}関脇」となり、さらに各ブロック関脇によるトーナメント戦を制した力士が「最強横綱」の称号を得ることになります。



【1】・【2】白熱する取組み。子どもたちの声援に応えるように、かぶと虫も頑張ります。【3】3回目の出場だという藤木陽菜ちゃん(山形市)。「こんなに勝てたのは初めて。大関になれて嬉しいです」。【4】木のぼりレースの様子【5】子どもたちに大人気の「かぶくん」【6】会場の外には、災害時などに活躍する車輛が大集合。子どもたちは「かっこいい!」と目を輝かせていました。【7】ほんわ館でスタンプを押してもらい、ソフトクリームをゲット!【8】コーチの指導を受ける鈴木悠良ちゃん(山形市)。「キャッチボールのコツを教してもらった。帰ったらお父さんと練習します」。